

中高大合同ビブリオバトル交流会報告

Report: A Joint Bibliobattle Event among Junior High School, High Schools, and University

池田 光雪*

Kosetsu IKEDA

2019年7月16日に愛知淑徳大学人間情報学部のイベントとして、名古屋市立名東高等学校（以下、名東高校）、東海高等学校、愛知淑徳中学校と合同でビブリオバトルを行った。本イベントは2017年に初めて行われて以来定期的実施しており、今回で3回目の開催となる。本稿ではその成果を報告する。

ビブリオバトルとは、発表者たちが持ち寄った本それぞれについて1人5分の紹介と数分の質疑応答を順番に行い、最後に観客も含めた参加者全員が一番読みたくなった本に投票して「チャンプ本」を決める知的書評合戦である。ビブリオバトルは元々2007年に大学におけるコミュニケーションゲームとして考案されたが、2010年頃からメディアを通じて様々なコミュニティに普及するようになり、今日では小中高等学校のような教育機関においても教育手法の一環としてよく用いられている。

本イベントは当初名東高校の発案で始まったものである。名東高校では以前から学内でビブリオバトルを開催していたが、高校生同士では中々質疑応答が活発に行われないう課題の解決や、参加者同士でのコミュニケーションが活発に行われる場作りも兼ねて本学でも合同開催するようになった。

当日の発表者は名東高校から2名、東海高等学校から2名、愛知淑徳中学校から1名、本学から2名の計7名で、生徒・学生と教職員合わせて50名を超える参加者が集う大変盛況な会となった。特に、本学からは1年生から4年生まで幅の広い学生が参加した。司会進行は全て名東高校の生徒が行い、質疑も会場から満遍なく寄せられた。紹介された本もバリエーションに富み、普段は中々交流がない中学生から大学生が一堂に会することで、互いによい刺激を得られたようである。実施後の感想はいずれも好評であり、今後も継続して開催されることが期待される。

紹介本

東川篤哉『ここに死体を捨てないでください!』	宮部みゆき『ブレイブストーリー』
ランドール・マンロー『ホワット・イフ?』	中日新聞社会部『少年と罪』
TABIPPO 編『365日日本一周絶景の旅』	有川浩『レインツリーの国』 (チャンプ本)
尾嶋有『ぼくは落ち着きがない』	



当日の様子

* 愛知淑徳大学人間情報学部